

福島の被災地で学んだこと～ホープツーリズムに参加して～

令和7年9月3日

この夏、8月21～23日の3日間、2025ふくしま学宿チームHYOGO（ホープツーリズム）という企画に参加した5人の本校生がいました。

増田 帆夏さん（1－4）、村上 涼菜さん（1－4）、谷本 樹さん（1－7）、土江 悠莉さん（1－7）、春瀬 愛さん（2－5）の5人です。

この企画は、東日本大震災の被災地であり原発事故が起きた福島県を訪問して現地を見学し、また色々な人の話を聞いて理解を深め、今後にどう生かすのかを考えることを目的にしたプログラムです。

今年は11の学校から28名の高校生が参加しました。

本校からの参加者にインタビューした内容を少し紹介しますので、共有してもらえたらと思います。

（このプログラムに参加した理由は何ですか？）

- ・将来は地震学者になることが目標なので、東日本大震災について詳しく知りたかったのです。東日本大震災での被害の状況や原子力発電所の現在について知ろうと思いました。
- ・自分の物事に対する認識、意見を深めたいと思いました。その場に行かないとわからないことがあると考え、実体験をしてみたいと思い参加しました。

（参加して考えたことはどのようなことですか？）

- ・原子力発電所の問題もそうだが、様々な考えや意見があり、単一の答えは無いと言うことを感じました。地震や原発の問題だけではなく、社会のあらゆる所にそういう問題が多くある。また、そのような社会の中で自分の意見がなかなか言えないと言うのは問題で、考えたことを意見として述べていくことの重要性を学びました。
- ・今回東北を訪問して、東北で起きたことなので、東日本の地震、福島の原発というとらえ方でよいわけではなく、日本で起きた地震、日本で起こった原発事故、これは日本の我々一人ひとりの問題だと考えていく必要性を強く感じました。
- ・日本国内の地域による意識の差だけでなく、福島県内でもあって、津波の被害を多く受けた海に近い地域では意識も高いが、内陸部ではやや薄いとを感じる地域もあると聞き、考えさせられました。

（今後どう生かしていきますか？）

- ・今回参加して、福島の現在について知ることができた。地震の後、多くの人々が復興に向けて、努力して、今日までたどり着いたことも理解した。これからは、福島の人だけの問題ではなくて、日本の問題だと捉え、今後も主体的に考えていきたいと思います。
- ・身近な問題として、自分の家族と災害のときの避難場所等について話し合うなど、まずは足元の防災意識を高めていきたい。
- ・今回の経験をどう活かしていくが大事だと考える。伝えることが大切なことで、いろいろとこれからも悩んで考えて、将来に向けて歩んでいきたい。
- ・今後もどうなるかわからない災害について準備をしながら、100%満足できる生き方を目指していきたい。この体験を無駄にしない。



福島県いわき市薄磯地区
海拔10.3Mの場所で8.51Mの津波が押し寄せたとあります。



モニタリングポスト(放射能のレベルを示す機器)が町中のあちこちに



震災から15年近く経ってもまだそのままになっている場所も



請戸小学校遺構 津波に襲われたが、協力して1.5キロ離れた山に避難し、子どもたちは助かりました。上級生が下級生の手を引き避難したそうです。



ここは、請戸小学校の子どもたちが走って逃げてきた大平山の麓から小学校のある方角を眺めた写真です。
ここに東日本大震災で犠牲になった方を追悼するための慰霊碑も立っており、復興途中の一带の様子や太平洋を望むことができます。しかし、まだ、草原が広がっているばかりで、復興もまだまだです...



参加メンバーによる話し合いと発表
何事にも関心、問題意識を持ち、知恵を出し合えば解決していけることもあるはず。

本校生徒はそれぞれの意思で多様な活動に参加しています。これからも可能な範囲で共有できればと思います。